

病院の実力「胃がん」
医療機関別2021年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	総数 (件)	手術 うち腹腔鏡 (件)	うちロボット 支援手術 (件)	内視鏡治療 (件)
千葉				
国立がん研究センター東	224	105	81	262
県がんセンター	121	76	21	219
国保旭中央	94	15	21	110
亀田総合	71	28	0	160
船橋市立医療センター	70	26	9	50
国保君津中央	69	12	0	86
順天堂大浦安	62	61	1	142
千葉労災	52	22	0	75
新東京	50	19	26	73
柏厚生総合	49	28	17	110
千葉大	47	15	6	172
成田赤十字	42	11	0	73
東京歯科大市川総合	41	23	0	45
千葉西総合	40	31	8	60
聖隷佐倉市民	36	9	0	14
千葉徳洲会	30	28	0	18
東邦大佐倉	28	25	0	51
千葉市立海浜	22	12	0	34
松戸市立総合医療センター	20	10	0	18
キッコーマン総合	19	4	0	3
おおたかの森	18	2	0	25
慈恵医大柏	14	12	0	50
セコメディック	11	7	0	31
さんむ医療センター	7	2	0	5
辻仲柏の葉	0	0	0	11
茨城				
水戸赤十字	64	0	42	21
日立総合	59	30	3	82
県立中央	46	24	0	51
筑波記念	45	10	0	55
友愛記念	45	0	0	28
筑波メディカルセンター	30	5	0	33
水戸済生会総合	26	7	0	36
東京医大茨城医療センター	26	3	0	35
牛久愛和総合	17	1	0	6
埼玉				
埼玉医大国際医療センター	184	130	0	215
さいたま赤十字	92	58	30	132
埼玉医大総合医療センター	90	38	22	102
独協医大埼玉医療センター	83	15	67	105
済生会川口総合	52	49	0	68
防衛医大	52	42	0	80
上尾中央総合	52	24	15	88
自治医大さいたま医療センター	43	15	0	161
深谷赤十字	43	8	0	60
埼玉石心会	42	23	0	56
草加市立	35	22	0	34
春日部市立医療センター	31	13	0	14
川口市立医療センター	30	30	0	101
TMGあさか医療センター	30	23	0	42
さいたま市立	30	12	6	61
越谷市立	29	8	0	24
さいたま市民医療センター	28	16	0	32
埼玉協同	25	13	0	37
熊谷総合	22	8	0	—
東大宮メディカルセンター	21	16	0	38
戸田中央総合	16	10	0	37
新座志木中央総合	11	6	0	20
埼玉医大	10	1	0	53

「セ」はセンター、「一」は無回答または不明。
※一部施設含む

胃がん

病院の実力
～千葉編 172

ロボット支援 高い安全性

今回は、胃がんを取り上げて、大腸がん、肺がんに次いで3番目に多い。治療は、手術、内視鏡治療、抗がん剤など薬物療法が中心だ。がんの進行度や、ほかの臓器への転移の有無だ。

今回の調査では、代表的な4種類の手術数を聞いた。切除範囲の大きい順に「全摘」「幽門側胃切除」「幽門保存胃切除」「噴門側胃切除」となり、がんの位置や広がりなどで決める。最も多いのは、胃の出口である「幽門」側の3分の2程度を切除し、入り口となる「噴門」を残す「幽門側胃切除」だ。胃の一部を残すことで、全摘と比べ、術後の食生活への影響を減らすなどの利点がある。手術の方法は、「開腹」「腹腔鏡」「ロボット支援」がある。主流は、腹腔鏡手術だ。開腹と比べ、傷口が小さく、体への負担が少ない。器具を操作するには、高度な技術が必要だ。ロボット支援手術は、医師が少し離れた場所から腹

腔鏡を操作する。18年に公的医療保険が認められ、今年4月、従来の腹腔鏡より、安全性が高いことが確認できたとして、診療報酬(公定価格)が引き上げられた。さらなる普及が見込まれる。

全国の調査結果は21日の「安心の設計画」に掲載しました。